

令和5年度第1回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和5年5月25日（木）10：00～11：30
2. 開催場所 釜石市青葉ビル 研修室
3. 出席者等 <出席委員13人>
藤原伸哉委員、鈴木ゆりえ委員、佐々木江利委員、平松寿倅委員、松岡公浩委員、藤原けいと委員、八幡雅子委員、植田志津子委員、伊東公一委員、菊池利行委員、福成菜穂子委員、黍原豊委員、佐藤奏子委員
<市側出席者>
釜石市保健福祉部長 鈴木 伸二
釜石市保健福祉部子ども課長 村山 明子
子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悦子
課長補佐兼次世代育成係長 菊池 喜子
次世代育成係 主事 佐藤 愛
釜石市保健福祉部健康推進課 課長補佐兼保健予防係長 川原 瑞穂

4. 経 過

(1) 開 会

村山課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。

(2) 委員長挨拶

本日は、第1回目ということで説明あるいは報告事項が主になります。皆様に各自ご意見を伺うことはしませんが、その代わりに資料を熟読していただいて、細かなことでもいいので挙手の上、できるだけご意見・ご質問をいただければと思います。よろしくお願いします。

(3) 議 事

①特定教育・保育施設の利用定員の変更について（説明）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

②第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

③釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。

④第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトの進捗状況について（報告）

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。委員から、様々な意見をいただいたほか、各種関係事業や他市町村の取組事例等を情報共有した。

⑤その他

子ども課における事業実施状況及び報告等について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明した。委員から、様々な意見をいただいたほか、各種関係事業や他市町村の取組事例等を情報共有した。

(4) その他

- ・次回会議日程についての説明（11月頃を予定）

(5) 閉 会

○主な議事での発言は以下のとおり

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について
意見なし

(2) 第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

菊池委員：資料2-1の一時預かり事業について、年度ごとに利用者数が減ってきているが、これは少子化が要因なのか詳しく教えてほしい。延長保育は数が逆に増えているが、これもどのような要因なのか教えてほしい。最後に、今、園児数に対する保育士の数は決まっているが、釜石市では、保育士の人数などの勘案、ケアや人数を増やしているなどの事例はあるのか。

事務局：1点目の一時預かり事業の利用者数が減った要因は、少子化もありますが、コロナの影響も大きいと思う。延長保育事業は、甲東こども園で延長保育をお願いしている方が多かったことで増加している。もう一つ、保育士は基本的に国の基準に合わせて配置している。市からは、障がい児がいる園に対して補助金を交付している。

(3) 釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について

菊池委員：一つ目は、各保育施設で、保育士等の待遇・処遇をしっかりと確保してほしいと思う。労働者の待遇・処遇をしっかりと確保することで、子どもたちの保育も教育も成り立つと思います。ぜひ各園で働き方に対してどのような工夫をしているのか知りたい。

もう一つは、小学校と保育園、幼稚園の連携はどうなのか知りたい。特別支援に対する充実として、個別指導計画の作成は非常に良いと思います。特に保護者の皆さんは、しっかりとないでもらえる人が欲しいのだと思います。釜石市で実施している方法を教えていただきたい。また、それをもっと広報していただきたい。

事務局：1点目の保育士の働き方について、子ども課では各園での取り組みについては把握していない状況だが、様々な工夫をされていると思う。市では、保育士の仕事の効率化を図るために、例えばICTを活用したシステムを導入するための補助金等を交付している。

次に、小学校への繋がりですが、発達支援室の公認心理士が、健診で発達に遅れがあるお子さんが分かったところから保健師とともに保護者に寄り添って支援している。療育が必要ではないかという見立てから、就学前は、教育委員会とのつなぎの部分もサポートしている。すくすく親子教室や児童発達支援施設に通っているお子さんは、事業所と一緒に親御さんの不安を解消していきます。3月になると、学校や園と一緒に支援会議を行い、学校に繋ぐ形をとっております。常日頃、園から気になるお子さんの情報をいただいているので、連携しながら丁寧に行っていききたい。

福成副委員長：今、各小学校に地域コーディネーターが入り、地域交流のプランを立て、地域ボランティアと学校を繋いでくれている事業が進められています。また、去年、全国でスクールコミュニティ制度がスタートしました。各小学校、中学校単位、小・中学校一緒のところもあります

が、約 15 名の地域住民で、地域課題や学校の方針に対して自分たちがどのように協力していけるかなどを話し合う場ができました。他にも、年に 1 回、小・中学校の先生方の研究発表があります。先生方が全員 TETTO に集まってチーム編成し、各学校の研究課題について 1 月か 2 月に発表する場ものです。釜石市は幼稚園・保育園からもチームを作って発表しています。小学校と連携して普段の生活の情報交換ができていて、子どもたちがスムーズに学校に入れる体制がつくられていて、発表を聞いたときにすごいなと毎回感動します。発表に参加した人だけ分かっているのはもったいないと思います。ぜひ情報を拾えるときは聞いていただければと思います。

(4) 第 2 期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトの進捗状況について (報告)

佐藤委員：資料 4 のプロジェクト 2 「②既存の公共施設について、子どもや保護者が集い利用しやすくなるように整備をします」について、公共施設に勤めているので、満足度がこのような結果となった理由をぜひ知りたいです。アンケートにあった意見を共有するだけでも、課題を持っている方がいることが分かると、現場で少しでも満足度を上げたり、公共施設の使いやすさの底上げになって、遊び場だけではなく、市民にとって良い場所が増えてくるのではないかと思います。そういった意見をぜひ共有していただきたいなと思いました。

事務局：前回のアンケートでは満足度の理由を具体的に聞いていなかったなので、今後はアンケートを実施する場合は理由についても調査し、その結果については、情報共有をさせていただきたいと思います。

伊東委員長：企業も役所もやはり成果主義になってしまい、最後は数字で判断するのが大半だと思います。市民からの要望や文句への対策がほとんどで、市役所の中でアドバイザーを入れて対策を打ち出していくのが普通のやり方なのかなと考えます。このベクトルを逆に向けて、役所サイドから「こんなことを市民の皆さんが不安に思っていますが、皆さんどうしましょう。」と問題提起するのがすごく大事なのではないかと思います。掲示板方式で、「こんな課題が出ていて、これに対して何か意見はありますか。」「こうしてみようと思いますがどうでしょうか。」「それ良いね。」など。市民の投書箱からインフラの工事を始めるという長崎の取組みもあります。道端を見て、直した方が良くと思う部分をスマホで写真を撮って、これを直した方が良く、この工事は不要ではないか、なぜやっているのかななどの議論を市民と一体で進めている行政もあります。

もう一つは、商工会議所等と連携して、企業の育児休暇の活用を市で把握して、良い方向に進めることを考えるのも良いかなと思います。企業の実態を市も民間も把握して、地域で共有できればいいのではないかなと思います。例えば釜石市では 60% の企業が実施しているなど、数字で共有するものありだと思います。市での調査も含めて、全然周りを気にせず育児休暇を取得できる環境を作っていくにはどうしたらいいか、皆で考えていく。要は、地域全体で子育てを皆で頑張っていく考えを、どうやって広げていくかということだと思います。

事務局：1 点目について、釜石市のホームページで、様々な人の意見を聞く登録制のサイトがあります。子ども課独自ではなく市全体のサイトですが、調整のうえ活用し、こちらから子育てに関する問題を投げかけて意見を吸い上げることは可能だと思います。

もう 1 点目について、釜石市子育て応援企業認定制度を設けています。国の育児休業や介

護休業の基準を上回っていたり、独自で子育てに関する取組みを実施している企業を認定しています。先日、新たに岩館電気(株)釜石営業所さんと(株)山元さんを認定しました。徐々に会社全体での機運が高まっていると思いますが、企業の取組みについて周知できていないのは確かです。大きな目標ですが、市全体で子育て支援のまちづくりに向けて何かできることを考えていきたい。

伊東委員長： 私が言いたかったのは、認定制度や国の補助金制度ではなく、なぜやらない企業がこれだけいるのかということです。制度とは別で、ソフト面で増やしていく。微妙な問題といえますか、何か共有してやっていけるものがあればと思います。

福成副委員長： 企業で本当に取組みを実施しているか、できる環境なのかは大きな課題だと思います。市の行政改革の会議でも、市職員も育児休業を取って良いと分かっているにもかかわらず取れないのが現実との話がありました。堂々と休んで良いという企業が表向きでは出てきても、実態は本当に大変なところですよ。学校の先生方の残業が2倍になっている問題が話題になっていますが、岩手県もそのような状態です。先生方も大変な中で子育てしており、皆が平等に育児休暇を取れているかということ、手を挙げられなかったり、実家に預けるなど工夫しながら子育てしているのが現実です。どうして行けば良いか糸口が少しでも見つければ、この会議の成果が出るのかなと思います。

伊東委員長： 皆さんで次の時の宿題ということで、こんなことが良いのではないかというものを考えてきていただければと思います。

(5) その他

平松委員： 保育料無償化の拡充について、親としては大変喜ばしい制度だなと思っています。今までは、同時入所という条件付きで2人目の保育料が無償化でしたが、親としては歳の差にかかわらず、2人目は2人目という意識があったので、同時入所にかかわらずという条件が加わったことは大変うれしく思っています。その他の制度でも、親と制度の間で、第2子・第3子の考え方に乖離があると思います。今後、釜石市でも給食費無償化等の議論が行われるうえで、この事業のように同時入所にかかわらず考えていただけたらと思います。

事務局： この事業は、岩手県全体で少子化が進んでいるということで、県と連携して開始したものです。令和5年4月からは、全県で同時入所にかかわらず第2子以降の保育料を無償化した市町村が増えております。市町村によって、全部無償化しているところもあれば条件は様々ですが、少子化対策に取り組んでいます。給食費に関しても、釜石市は条件が付いておりますが、4月1日から第3子以降の給食費を無償化しております。今後、国の動向も見ながら検討していきたいと思っております。

鈴木委員： 保育料の無償化について、県内で一斉に進めているような感じですが、あまり足並みをそろえる必要はないのかなと思っています。最近よく話題にあがる明石市や岡山県奈義町、流山市、千葉県など、市単独でがががやっているところは、予算見直しに絶対に関わる話だと思いますし、市長が本気になってやっています。明石市では制限のない無償化、隠れたところにかかる子育て費用。例えば、辞書や水泳道具、習字道具にも補助するなど、本気でやっている市町村があります。例えば、子ども課のスタッフを増やす、市の予算としてできるもので、あまりいらぬように思われる土木工事とかを子ども予算に充てるなど。日本中

で子どもは少なくなっているので「全国的な問題だから仕方ない」ではなく、本気で取り組んでいる市町村は子どもが増えている実績もあると思います。少子化を前提としたまちづくりをするという考え方もあっていいと思いますが、本気で子どもを増やしたいと思うのであれば、予算など全体の見直しが必要ではないかと思いました。

事務局：予算等も絡んでくるので、ここですぐお答えはできませんが、ご意見を踏まえて予算に反映していきたいと思います。

福成副委員長：相談室のはぐくみルームは、一生懸命進めていくことがとても大事だと思います。周知はこれからということですが、保護者や学校の先生方にまずしっかり周知していただきたいと思います。普段の自分たちの生活に取り入れながら、悩んでいるときは1人で悩まないで、子どもの命と心を守るために、子どもだけではなく、親御さんの気持ちの部分も含めて、しっかり相談できる場所にして欲しいと思います。大変うれしい情報です。

また、釜石市は、不登校の子どもたちの居場所づくりとして、教育委員会に「若葉教室」を設置しています。担当の方も2人いますが、40数名の不登校の子どものうち6名しか利用していません。この実態を踏まえて、今年の4月から、小学校と中学校に一つずつ、実験的にフリースクールのスペースを設置する事業がスタートしました。子どもたちが一步步元の生活に戻れるような環境づくりに取り組み、情報が欲しい皆さんに発信する努力をしていかなければと思います。

私は、子育て支援は若者支援だとずっと言い続けてきました。出産に臨める若者支援に関する市の方針も、ぜひ次の会議でご紹介いただければお願いしたい。